

中学校における音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法開発  
— 《ソーラン節》を通して—

鈴木慎一郎・廣富恵美子

The Teaching Development of Japanese Folk Song in Digital Textbooks  
for Junior High School Music Education  
: A Case Study on “Sorانبushi”

SUZUKI Shinichiro・HIROTOMI Emiko

地域学論集（鳥取大学地域学部紀要） 第14巻 第2号 抜刷

REGIONAL STUDIES (TOTTORI UNIVERSITY JOURNAL OF THE FACULTY OF REGIONAL SCIENCES) Vol.14 / No.2

平成30年3月12日発行 March 12, 2018

# 中学校における音楽デジタル教科書を活用した

## 日本の民謡の指導法開発

ー 《ソーラン節》を通してー

鈴木慎一郎\*・廣富恵美子\*\*

### The Teaching Development of Japanese Folk Song in Digital Textbooks for Junior High School Music Education: A Case Study on “Sorانبushi”

SUZUKI Shinichiro, HIROTOMI Emiko

キーワード：中学校音楽デジタル教科書，日本の民謡，《ソーラン節》，モデル指導案，授業

Key Words : Digital Textbooks for Junior High School Music Education, Japanese Folk Song, “Sorانبushi”,  
Teaching Model Plan, Class

#### はじめに

本稿の目的は、鳥取大学附属中学校の実践事例に基づき、中学校における音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法を開発することである。

1998（平成10）年告示の中学校学習指導要領において「和楽器については、3年間を通じて1種類以上の楽器を用いること」と規定された以降、中学校の音楽の授業では、和楽器の表現活動が必修となっている。一方、教育職員免許法施行規則が2000（平成12）年に改訂され、中学校や高等学校の音楽の免許を取得する際、「日本の伝統的歌唱」や「和楽器」が含まれるように規定された<sup>1</sup>。鳥取県公立学校教員採用試験候補者選考試験の中学校教諭の音楽の実技試験に目を向けると、ピアノ、声楽、管・弦・打楽器の西洋音楽に加え、和楽器も課せられている<sup>2</sup>。しかし、筆者が鳥取県の代表的な民謡である《貝殻節》の実践率について鳥取市内を対象にアンケート調査をしたところ、小学校は59%であるのに対し、中学校は23%と低かった<sup>3</sup>。その要因としては、授業時数の不足が最多であった一方、「指導法が分からない」という回答も多く見られた。2017（平成29）年告示の中学校学習指導要領においても「我が国や郷土の音楽の指導」の一層の充実が求められており、指導法開発は喫緊な課題である。

日本の民謡の定着を図るためには、それに対する造詣が浅い教員にとっても、実践可能な無理のない指導法を開発することが決め手となる。そこで本研究では最も身近な存在である教科書に注目してみたい。中でも音楽デジタル教科書には、音声や動画が収録されており、音楽表現と合わせた日本の民謡の実践の展開も期待できる。日本の民謡を歌い慣れない教員であっても、音楽デジタル

---

\* 鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース

\*\* 鳥取大学附属中学校

教科書を活用することで、表現活動を取り入れた授業実践が可能となる。

音楽デジタル教科書に関する先行研究としては、坂本暁美が挙げられるものの、日本の民謡の指導法に特化した研究ではない<sup>4</sup>。中学校における《ソーラン節》を取り上げた実践研究として、志民一成があるが、音楽デジタル教科書は使用されていない<sup>5</sup>。これまでに筆者の鈴木は、小学校の音楽デジタル教科書における日本の民謡についての分析を行い、「音声」が掲載されていたものの、西洋化された音楽表現である課題点を指摘した<sup>6</sup>。では、中学校の音楽デジタル教科書では、どのように日本の民謡が取り扱われているのだろうか。

研究方法としては第一に中学校学習指導要領における我が国や郷土の伝統音楽の位置付けを概観する。第二に音楽デジタル教科書における「日本の民謡」の教材分析を行う。第三に音楽デジタル教科書の操作方法も明記したモデル指導案を作成する。第四に鳥取大学附属中学校研究発表大会においてモデル指導案に基づいた公開授業を行い、実践の有効性を検証する。

## 1. 中学校学習指導要領における我が国や郷土の伝統音楽の位置付け

表1は、2008（平成20）年告示と2017（平成29）年告示の中学校学習指導要領を対照したものである。

1種類以上の和楽器の表現活動も引き続き、必修となっている。民謡に関しては、多少記載の仕方が異なるが、鑑賞だけではなく、表現活動としても推奨されている。なお、日本の民謡には、踊りが伴うが、踊りに関しては保健体育の「ダンス」に位置付けられているため、関連を図った実践が望まれる。

表1 中学校学習指導要領における我が国や郷土の伝統音楽の位置付け

2008（平成20）年	2017（平成29）年
第1学年 A 表現 (4) イ (イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの B 鑑賞 (1) ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。 B 鑑賞 (2) 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。 第2学年及び第3学年 A 表現 (4) イ (イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統	B 鑑賞 (1) イ (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

<p>的な声の特徴を感じ取れるもの</p> <p>B 鑑賞 (1) ウ</p> <p>我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。</p> <p>B 鑑賞 (2)</p> <p>鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。</p> <p>内容の取扱いと指導上の配慮事項 2 (2)</p> <p>なお、和楽器の指導については、3 学年間を通じて1 種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること。</p> <p>内容の取扱いと指導上の配慮事項 2 (3)</p> <p>我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導については、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方についても配慮すること。</p>	<p>B 鑑賞 (1) イ (ウ)</p> <p>我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性</p> <p>内容の取扱いと指導上の配慮事項 2 (2) (イ)</p> <p>民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、生徒や学校、地域の実態を考慮して、伝統的な声や歌い方の特徴を感じ取れるもの。なお、これらを取り扱う際は、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること。</p> <p>内容の取扱いと指導上の配慮事項 2 (3) イ</p> <p>なお、3 学年間を通じて1 種類以上の和楽器を取り扱い、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること。</p> <p>内容の取扱いと指導上の配慮事項 2 (6)</p> <p>我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導に当たっては、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方についても配慮するとともに、適宜、口唱歌を用いること。</p>
--	---

## 2. 音楽デジタル教科書における日本の民謡

現在、中学校の音楽の教科書は、教育芸術社と教育出版の2社から発行されている。音楽デジタル教科書についても同様である。

2012 (平成 24) 年に教育芸術社から中学校音楽デジタル教科書が発行されたのが最初である<sup>7</sup>。教科書が改訂された 2016 (平成 28) 年には、教育出版からも中学校音楽デジタル教科書が発行され、教育芸術社の中学校音楽デジタル教科書も改訂された。

鳥取大学附属中学校では、教育芸術社の教科書を使用している。実際に教育芸術社の音楽デジタ

ル教科書における日本の民謡をみてみたい (『中学生の音楽1』)。

まずは図1に示した通り、44~45頁には、「音声」や「動画」ではなく、「WEBジャンプ」というデジタルコンテンツのみクリックでき、教育芸術社のWEBサイトにリンクできる。



図1 教育芸術社 音楽デジタル教科書 『中学生の音楽1』

続いて《ソーラン節》が掲載されている46, 47頁には(図2), 模範演奏とコブシに関する解説が収録された「動画」をクリックできる。模範演奏については、男声と女声の2種類ある。動画は、教師用指導書に付録されている授業支援DVD「日本の伝統的な歌唱 民謡を歌おう～民謡「ソーラン節」～(男声編/女声編)」と同一の映像が使用されている。ただし音楽デジタル教科書には、図3に示した通り、DVDではできない、「模範演奏」と少しずつ区切った四つの旋律(①~④)の5種類を選択してクリックすることができ、伝統芸道の方法である「模倣」と「繰り返し」を無理なくできるように工夫されている。

男声の模範演奏は、伊藤多喜雄(歌)、安藤龍正(囃しことば)、山中裕史(三味線)、佐藤公基(尺八)、女声の模範演奏は、三音麻央(歌)、佐藤理加(囃しことば)、山中裕史(三味線)、佐藤公基(尺八)によって行われている。コブシの解説は、伊藤多喜雄によって行われる。



図2 教育芸術社 音楽デジタル教科書 『中学生の音楽1』



図3 教育芸術社 音楽デジタル教科書 『中学生の音楽1』



### 3. モデル指導案

モデル指導案を作成する際には、以下の点に配慮した。第一に音楽デジタル教科書の操作方法も明記する、第二に小学校の学習内容を踏まえ、小学校と中学校との一貫を図る、第三に研究発表大会の研究課題とも一致するように、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組める方法にする、第四に公立学校でも実践できるように教科書をベースに置いた実践とする。

第1学年を対象に題材名を「日本の民謡の音楽の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう」とし、以下は題材の目標を設定した。

#### 題材の目標

- ・日本の民謡の特徴を理解することができる。
- ・民謡のリズムに着目し、「拍ののったリズム（八木節様式）」と「拍のない自由なリズム（追分様式）」の民謡を聴き比べ、特徴を感じ取ることができる。
- ・日本の民謡にふさわしい発声に気づき、表現方法を工夫して《ソーラン節》を歌うことができる。

学習計画は以下の通り、設定した。小学校第4学年において八木節様式である《ソーラン節》と追分様式である《南部牛追い歌》の聴き比べを行っているため<sup>8</sup>、小中一貫という視点からあえて、第3時に聴き比べの活動を設けた。

#### 学習計画（全5時間）

第1次 人々の暮らしから生まれた日本の民謡に親しみ、そのよさを味わおう。

第1時 日本の民謡の音楽の特徴をとらえ、そのよさや美しさを味わいながら聴き、民謡のタイプ、民謡の音階を知る。

第2時 各地の民謡について調べたことを発表し、それぞれの民謡の背景となる文化・歴史を知る。

第3時 民謡のリズムに着目し、「拍ののったリズム（八木節様式）」と「拍のない自由なリズム（追分様式）」の民謡を聴き比べ、特徴を感じ取る。

第4時 《ソーラン節》の生まれた背景について知り、《ソーラン節》を歌ってみる。

第2次 声や音楽の特徴を感じ取って歌おう。

第5時 日本の民謡にふさわしい発声により、言葉の特性を生かしながら表現を工夫して《ソーラン節》を歌う。（本時）

公開授業となる、本時の目標は「日本の民謡にふさわしい発声により、言葉の特性を生かしながら表現を工夫して《ソーラン節》を歌う」とし、以下のモデル指導案を計画した。

北海道民謡である《ソーラン節》は、教育出版の第1学年の教科書にも掲載されている<sup>9</sup>。一方、小学校に関しては、前述の通り、教育芸術社では第4学年で鑑賞教材として取り上げる。教育出版については、第4学年で表現教材として扱い<sup>10</sup>、小中とも全社で掲載されている民謡である。

《ソーラン節》は別名《沖揚げ音頭》とも呼ばれる通り、枠網に入ったニシンの群を大タモ網を用いて汲船へ汲揚げる折の沖揚げ唄である<sup>11</sup>。

学習活動	留意点（・）評価（※）デジタル教科書（☆）
<p>1 声に着目して《ソーラン節》を聴き、どんな歌い方をしているか、感じたことや気付いたことを意見交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声が震えている</li> <li>・力強い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDの模範演奏をかけ、声に着目できるようにする。</li> </ul>
<p>日本の民謡の声の特徴を感じ取って歌おう</p>	
<p>2 「コブシ」のある《ソーラン節》と、「コブシ」のない《ソーラン節》を聴き比べ、どこが違うか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コブシがない→さみしい棒読みみたい</li> <li>・コブシがある→民謡の雰囲気が出る 勢いがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDの模範演奏と自分たちの歌を比較することで、どこが違うのか考えることができるようにする。</li> <li>※両者の違いについて感じ取り、言葉で表すことができる。【思考力】（ワークシート）</li> </ul>
<p>3 「コブシ」はどんな歌い方か考え、具体的な歌い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微妙に音程が変化している</li> <li>・音が瞬間的に上がり下がりしている</li> <li>・歌い手が即興的につける細かい音の動きこと（歌い手の腕の見せ所）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コブシ」の方法について、自分たちで気付けるように促す。</li> <li>☆ある程度意見が出たところで、「コブシ」の動画（ニシンきたかと～の部分为例に）をクリックし、解説と模範演奏をかける。（約1分30秒）</li> </ul>
<p>4 絵譜を見ながら、全体を歌い、その後、自分でつけやすい場所に「コブシ」をつけて歌ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽デジタル教科書のおかげで、コブシの特徴が分かったよ</li> <li>・コブシは難しいけれども、おもしろいな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コブシをつける活動を取り組みやすくするために、自分のやりやすい場所（1～2カ所）で「コブシ」をつけるよう、指示する。</li> <li>☆生徒の状況を観察し、必要に応じてコブシの解説をかける。</li> <li>※発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。【表現】</li> </ul>
<p>5 《ソーラン節》の模範演奏を聴き、自分の歌唱と、模範演奏を聴き比べ、模範演奏をまねながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模範演奏は、さすが、カッコいいな</li> <li>・コブシが少しずつ、できるようになってきた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵譜を見ながら《ソーラン節》を聴き、微かな旋律の動きを聴き取る。</li> <li>・微かな音程の変化を目で見えて確認できるよう、プリントの絵譜を、指でなぞるよう助言する。</li> </ul>
<p>6 本時の学習を振り返り、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習内容を予告する。</li> </ul>



## 4. 授業の実際

### (1) 実践の概要

公開授業は、以下の通り実施された。

- ・実践日時 2017 (平成 29) 年 7 月 7 日 (金) 9 時～9 時 50 分
- ・実践者 廣富恵美子
- ・題材名 日本の民謡の音楽の特徴を感じ取って、その魅力を伝えよう

### (2) 授業の実態から

#### 1) 授業記録から

授業では音楽デジタル教科書に収録されている動画が使用された。使用された動画は、コブシの説明と、男声の模範演奏と旋律を少しずつ区切ってある演奏 (①～④) である。

以下の授業記録は、指導案の「2」に該当し、「コブシ」のある《ソーラン節》と、「コブシ」のない《ソーラン節》を聴き比べ、どこが違うかを考える場面である。

「コブシ」について理解できるようにするため、音楽デジタル教科書が使用されている。伊藤多喜雄の解説の他、範唱も交えているので、理解が深まる。解説の中で、「コブシ」は「歌い手が即興的につける、細かい音の動きのこと」と定義され、教科書の記載と一致する。

指導案ではコブシのない《ソーラン節》は生徒たちの歌声にする計画であったが、授業では、実践者の廣富が歌って示す。音楽の授業において教師が音楽表現をすることはとても重要で、この行為は、生徒たちにもインパクトを与えた。

T まず、コブシがあるものとなないもので、聴き比べてみたいと思うのだけど、コブシとはどんなものかなかというのを確認したいと思います。じゃあ、説明をしてもらいますので、聞いてみましょう。

☆ 民謡に欠かすことができない技法の一つに「コブシ」があります。

歌い手が即興的につける、細かい音の動きのことで、

歌い手の腕の見せ所でもあります。

みなさんもコブシに挑戦してみましょう。

「ニシンきたかとカモメにきけば」の部分を少しゆっくり歌ってみますので、コブシに注目して聴いてください。

(範唱)「ニシンきたかとカモメにきけば」

「ニシンきたかと」の「た」と「カモメに」の「モ」は、「ニシンきたかと」(範唱)というように、しゃくりを入れます。

T コブシの感じ分かった？じゃあ、コブシがあるものとなないのとで、どこが違うかなかというのをこのプリントの下ね、聴きながらでもいいので書いてください。

音に注目しましょう。

(映像は流さず、音のみ流す)

T 以上、コブシがある。

じゃあ、ない方は先生がやってみます。

(前奏のみ音源を流し、Tがその後アカペラで、コブシをつけずに歌う)

T 違ったよね。何かが…

C (ワークシートに記入)

T もう1回、比べましょう。コブシのないものから今度はいきますね。

凡例 T：実践者（廣富），C：生徒，☆：音楽デジタル教科書，（）：行為，動作等。

ワークシートに記入後、「コブシがないのはどんな感じだった」との発問後、一斉に複数の生徒から勢いよく挙手があり、学習意欲の高まりが感じられる。以下が出された感想である。

C コブシがあるのと比べると、弱々しくて、おもしろみがない。

C 棒読みしているような感じで。

C 子守歌を歌っているような感じ。

C 温かい感じがしました。

C ひ弱な感じがしました。

一方、コブシがあった方については、以下の感想が出された。「力強さ」「迫力」等、コブシの特徴を的確につかんでいる。

C 力強く、堂々と、精一杯がんばって歌っている。

C 力強さがあって、重みがある感じ。

C 棒読みと違って、凹凸のある感じ。

C 迫力があって、心に残る感じ。

以下の授業記録は、指導案の「5」に該当し、《ソーラン節》の模範演奏を聴き、自分の歌唱と模範演奏を聴き比べ、模範演奏をまねながら歌う場面で、本時の授業の中で音楽デジタル教科書を一番、活用した場面である。なお、この活動の前では、アカペラで各自がコブシの練習をしていた。

T なんか困ったことはありませんか。大丈夫ですか。一生懸命、やろうやろうという感じがあるので、さらに歌いやすいというか、ちょっとトライできやすくなるように、プロの歌っているのを解説のみで見たいと思います。

☆ (模範演奏) ヤーレンソーランソーランソーランソーラン、ハイハイ

「ソーラン」「ソーラン」はそらそらという催促の言葉が変化したもので、これに対して囃しことばの「ハイハイ」が答えになっています。

「ヤーレン」の「ヤ」、「ソーラン」の「ソ」は、「ヤーレン」（範唱）というように、鋭く、気合いを入れて歌いましょう。

T はい、やってみよう。

☆ (歌う) ヤーレンソーランソーラン

- T 気合いを入れて、鋭く。はい、もう1回。
- ☆ (歌う) ヤーレンソーランソーランソーランソーラン
- T これがコブシだ。〇〇が掛け声をやってくれるのね。
- C (笑)
- T もう1回。
- ☆ (歌う) ヤーレンソーランソーランソーランソーラン、ハイハイ
- C (笑)
- ☆ (歌う) ニシンきたかとカモメにきけば
- T コブシの位置、見てな。ちょっと説明、聞きましょう。
- ☆ 「きたか」の「た」、「カモメ」の「モ」、「きけば」の「ば」の部分のコブシは、アクセントをつけて歌います。
- T ちょっと目立つようにね。
- ☆ (聴く) ニシンきたかとカモメにきけば
- T はい、歌ってみよう。
- ☆ (歌う) ニシンきたかとカモメにきけば
- ☆ (歌う) ニシンきたかとカモメにきけば
- ☆ (歌う) わたしやたつとりなみにきけ、チョイ
- ☆ 「チョイ」のところにアクセントを付けて歌いましょう。
- T コブシのところも見ていてね。はい、いくね。
- ☆ (歌う) わたしやたつとりなみにきけ、チョイ
- ☆ (歌う) わたしやたつとりなみにきけ、チョイ
- T 「チョイ」うまいな。コブシのところも…、頑張ってもらいたいな。
- ☆ (歌う) わたしやたつとりなみにきけ、チョイ
- ☆ (歌う) ヤサエーエンヤサーノドッコイショ、
- ☆ (歌う) ヤサエーエンヤサーノドッコイショ、
- T えっと、今、プロの人がコブシをつけているのを細かく区切って確認しながら見てもらって、確認しながら、歌ってもらいました。もう1回通していきますので、全部でなくていいので、ここというところ、コブシをつけてやってみましょう。コブシ、つける場所、決めた？いい？いきますよ。
- ☆ (歌う)

音楽デジタル教科書では、伊藤が範唱の後、「鋭く、気合いを入れて歌いましょう」と投げ掛ける。それを受け、実践者の廣富も「気合いを入れて、鋭く」と助言する。続いて、音楽デジタル教科書の「コブシは、アクセントをつけて歌います」の説明に対し、廣富は「ちょっと目立つようにね」と「アクセント」という用語を平易に置き替えて助言する。また、「「チョイ」うまいな」と称賛し、生徒の意欲を喚起している。音楽デジタル教科書では、模範演奏の他、旋律が4区分されていることを効果的に活用し、テンポよく、各旋律を繰り返して練習できるようにしていた。このように、音楽デジタル教科書と音楽教員が連携を図りながら進めたことにより、生徒たちは《ソーラン節》のコブシの特徴もつかみながら、歌えるようになった。音楽デジタル教科書を使用していないアカペ

ラの練習の際（学習活動4）と比較しても、声量が倍増し、生徒たちはスクリーンを真剣な眼差しで見つめ、練習に集中していた（写真1）。



写真1 音楽デジタル教科書から《ソーラン節》を学ぶ生徒

## 2) アンケート調査から

題材が終了したところで、生徒を対象に日本の民謡や音楽デジタル教科書に関するアンケート調査を行った<sup>12</sup>。

日本の民謡を歌うことに対して、65.6%の生徒が難しいと回答したが、94%の生徒にとって音楽デジタル教科書が歌う際に参考になったと肯定的な回答を示す（図4）。その理由としては、模範演奏を視聴覚的に見ることができ、理解しやすかった点を挙げている。

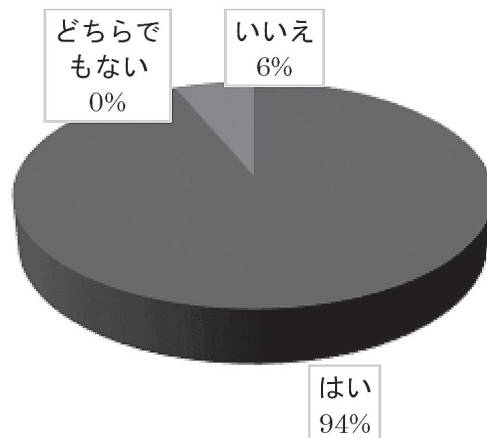


図4 音楽デジタル教科書は、歌う際に参考になったか？

指導前（小学生のとき）には、18.8%の生徒が日本の民謡が好き、指導後（中学生のとき）には、50%の生徒が日本の民謡を聴くのが好きと回答した。指導前と指導後の関係を調べるために、検定を行った。その結果を表2に示す。

表2 指導前と指導後の検定

	指導後			X <sup>2</sup> (df=3)
	好き	どちらでもない	嫌い	
指導前				
好き	5	0	1	12.333*
どちらでもない	11	10	1	
嫌い	0	2	2	

n=32, \*,p<0.05

検定を行った結果、 $X_0^2=12.333 > X^2(df=3, \alpha=0.05)=7.814728$  で有意差ありと判定する。指導前後において回答比率の変化がうかがえられ、指導後に日本の民謡が好きになった生徒は増加した。

以上、アンケート調査の結果からも、日本の民謡の学習において音楽デジタル教科書が有効であることが判明する。

### (3) 教員免許更新講習受講者から

鳥取大学附属中学校研究発表大会は、教員免許状更新講習である「【授業実践研究（中学校）】音楽」の一環としても位置付けられ、本年度は7名の受講生がいた。7名の所属の内訳は、中学校5名、高等学校1名、小学校1名であった。公開授業の後の研究協議会にも参加し、その後、音楽デジタル教科書の利点と課題を書いてもらった。一覧にしたものが表3である。

表3 教員免許更新講習受講者が捉えた音楽デジタル教科書

	利点	課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音源だけでは読み取れない、聴き取れない表情や体の動きを感じ取ることができる。</li> <li>○見たい場面の切り替えがすばやくできる。</li> <li>○伝承という側面からも映像で残せるというのはすばらしい。</li> <li>○音、映像、グラフィック等生徒に同時に提示できる。</li> <li>○興味ある部分だけ、抜き出せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△地域に根付いたものができるとうれしい。</li> <li>△発声法、コブシなどのやり方を教えていただけの場面や生徒がまねしたくなるようなものがあるとよい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○CDやDVDを入れ替えなくても、瞬時にデータにアクセスできる点が良い。時間数の少ない音楽ではこのような工夫が必要になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△デジタル教科書の普及にはカスタマイズできるかどうか重要になると思う。例えば、音声データとか動画データとかも授業を重ねることで差し替えが可能とか、柔軟さがなければ使いにくい。</li> <li>△デジタル教科書の普及はよいことと思うが、全国画一のデジタル教科書はどうだろ</li> </ul>

		う。これまではCDやDVDの選択において授業者の個性が出せたが、それができにくいというのは音楽教師にとっても努力を怠り、マイナスになるのではないか。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視覚に訴えられ、生徒にわかりやすい。</li> <li>○教科書の資料がそのまま使っているため、時間がたってからも教科書で再び確保することができる。</li> <li>○フレーズごとに歌っているため、生徒も覚えやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△歌っている音域が、男子にとっては歌いやすくても、女子にとっては歌いにくいということもある。少なくとも男声用、女声用バージョン二つあるとありがたい。</li> <li>△生徒に受け入れやすくされるため？に少し映像がかっこよくつくられている感じがある。もっと民謡っぽく、素朴な感じが伝わってくるとよい。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の専門にない分野の授業をするには大変準備に時間がかかり、結局、自信のなさから今年はやめておこうとなることが多いのですが、これがあればどんな状況に自分があつたとしても、授業で取り上げることができ、さらに活用し、前向きに勉強していくであろうと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△特によくない点は感じませんでしたが、音質を機材が決めるので、自分の力で変えることができないという、当たり前のことを感じました。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもに視覚的に示すことのできるものでよい。</li> <li>○知識や技術に不安がある民謡の分野で「してみせる」ことが難しいとき、有効。</li> <li>○区切って、必要なところだけすぐ繰り返せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△息遣いや空気感は難しい。</li> <li>△前奏に続いて歌なし（カラオケ）があれば、さらによい。</li> <li>△音量調整に手間がかかる。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民謡のプロの方が教えてくださるので、ある意味で生の声としてよい。</li> <li>○どの先生でも同じ条件で教えられるのが利点。</li> <li>○デジタルとして記録に残っていること（伝統芸能の保存）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△本物のよさを誤認（声量、発声等）しないように扱いたい。</li> <li>△設備の問題（スクリーン、アンプ等）。</li> <li>△深く学ぶところまでいかず、浅く広くに留まる危険性もある（本当に学ぶべきこと、ものが、伝統継承されるとよい）。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部分的に繰り返し再生することができる。</li> <li>→トレーニング（音程やリズムをつかむ作業）に使用しやすい</li> <li>○プロの演奏家の範唱や模範演奏が動画で収められている。</li> <li>○ペイント機能</li> <li>→楽譜を分析する際、使いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△考えさせたい部分まで解説されてしまう。</li> <li>→おまかせではできない。</li> <li>→音を止めるとき、ぶつ切りになってしまう。</li> <li>△再生のさせ方のバリエーションが少ない。</li> <li>→転調できる、テンポを遅くできるなどの機能がほしい。</li> </ul>

「地域に根付いたものができるとうれしい」「全国画一のデジタル教科書はどうだろう」の指摘の通り、教科書の課題は、全国一律の画一した教材になってしまうことである<sup>13</sup>。中学校学習指導要領においても「生徒や学校、地域の実態を十分に考慮して適切な教材を選択することが重要」とあるように、教科書だけではなく、地域の教材開発は推奨されている<sup>14</sup>。鳥取には、「貝殻節」をはじめとした民謡があるため、地域の民謡が収録された教材DVDの作成も今後、実施していく計画である。

利点と課題を列記するよう依頼したため、課題もたくさん挙げられているものの、現職の受講者

たちは、中学校における日本の民謡の学習において音楽デジタル教科書の果たす役割は大きいと肯定的な感想をもっていた。普及しない要因として、中学校音楽デジタル教科書については教育芸術社が1年間ライセンスで各学年20,000円+消費税、無期限で各学年60,000円+消費税<sup>15</sup>、教育出版が各学年76,000円であり<sup>16</sup>、予算上の課題があることも分かった。

## おわりに

本稿では鳥取大学附属中学校の実践事例に基づき、中学校における音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法について検討した。

教育芸術社の中学校音楽デジタル教科書の『中学生の音楽1』における《ソーラン節》では、模範演奏とコブシに関する解説が収録された「動画」が収録されていた。模範演奏については、伊藤多喜雄が歌う男声と三音麻央が歌う女声の2種類あった。そこをクリックすると、「模範演奏」と少しずつ区切った四つの旋律の5種類を選択してクリックでき、伝統芸道の方法である「模倣」と「繰り返し」を無理なくできるように工夫されている。

上記の機能を巧みに活用し、音楽デジタル教科書の操作方法も明記したモデル指導案を立案し、鳥取大学附属中学校研究発表大会において授業を公開し、教員免許更新講習受講者からの意見も踏まえた上で、実践の有効性を検証した。

授業記録の分析から、コブシがある例として音楽デジタル教科書、コブシがない例として実践者というように役割分担したことで、生徒たちはコブシの比較聴取に意欲的に取り組み、コブシの特徴を的確に捉えることができた。また、生徒たちが実際にコブシを意識しながら《ソーラン節》を習得しようとする際にも音楽デジタル教科書の解説や範唱を効果的に活用し、「模倣」と「繰り返し」により生徒たちは《ソーラン節》が歌えるようになった。

アンケート調査の結果から、94%の生徒が音楽デジタル教科書は歌う際の参考になったと肯定的な回答を示した。また、指導前後の検定を行った結果、指導後に日本の民謡が好きになった生徒が増加したことが判明された。

教員免許更新講習受講者からも音楽デジタル教科書に対する期待が寄せられた。

以上から、鳥取大学附属中学校における日本の民謡の学習の際に、音楽デジタル教科書の活用が有効であることが明らかとなった。今後は、教科書には掲載されていない、郷土に伝わる民謡の発掘を行った上で、DVD教材を開発し、音楽デジタル教科書とDVD教材を活用した実践研究を進めていきたい。



## 謝辞

本研究は、JSPS 科研費 JP17K04785 の助成を受けたものです。

## 注

- <sup>1</sup> 奥は教員免許法に日本音楽が位置付けられたものの、声楽と器楽が一体となっている場合が多い日本の音楽を声楽と器楽の別々の科目で履修する点や単位数の少ない点、非常勤講師の大幅削減による担当できる教員の不足の点等を挙げ、音楽教員養成において日本音楽が十分に実践できていない課題を指摘した。  
奥忍『日本の伝統的なリズムの学習に関する基礎的研究：語られる言葉から歌われる言葉へ』平成16～19年度科学研究費補助金研究成果報告書、2008年、23-29頁。
- <sup>2</sup> 鳥取県教育委員会『平成30年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項』2017年、6頁。
- <sup>3</sup> 太田綾香・大谷美佳・宮脇可南子・安田彩花・鈴木慎一郎「鳥取市の学校教育における《貝殻節》の教育実践に関するアンケート調査報告」『地域教育学研究』7巻1号、鳥取大学地域学部、2015年、72-77頁。
- <sup>4</sup> 坂本暁美「音楽科デジタル教科書の内容に関する一考察：教員養成課程の学生・初任教師の授業支援ツールとして」『四天王寺大学紀要』第58号、2014年、217-229頁。坂本暁美「音楽を教えることに不安を感じる教師にとつてのデジタル教科書の可能性：教員養成課程の学生の模擬授業を通して」『四天王寺大学紀要』第60号、2015年、245-257頁。坂本暁美「小学校音楽科デジタル教科書活用の実証研究」『四天王寺大学紀要』第61号、2016年、177-196頁。
- <sup>5</sup> 志民一成「民謡の歌唱活動前後に中学生が歌った合唱の歌声の変化：歌手のフォルマントと整数次倍音に着目した声質の分析を通して」『音楽表現学』Vol.14、日本音楽表現学会、2016年、29-36頁。
- <sup>6</sup> 鈴木慎一郎「小学校の音楽デジタル教科書における日本の民謡の基礎調査：《こきりこ》を事例として」『地域学論集』（鳥取大学地域学部紀要）第14巻第1号、鳥取大学地域学部、2017年、123-136頁。
- <sup>7</sup> 今井康人「デジタル教科書の現状と今後：音楽科のデジタル教材活用を中心に」『音楽教育実践ジャーナル』vol.11no.2（通巻22号）、日本音楽教育学会、2014年、16頁。
- <sup>8</sup> 小原光一・飯沼信義・浦田健次郎監修『小学生の音楽4』2016年（2014年検定済）、44-45頁。
- <sup>9</sup> 新実徳英監修『中学音楽1 音楽のおくりもの』教育出版、2017年（2015年検定済）、24頁。
- <sup>10</sup> 新実徳英監修『小学音楽 音楽のおくりもの4』教育出版、2015年（2014年検定済）、39頁。
- <sup>11</sup> 日本放送協会編『日本民謡大観 九州篇（南部）・北海道篇』日本放送出版協会、1980年、513頁。
- <sup>12</sup> 対象：鳥取大学附属中学校第1学年D組32名（鳥取大学附属小学校卒業生14名）、実施日：2017（平成29）年8月30日（水）11時40分～12時、実施場所：音楽室。
- <sup>13</sup> 権藤は「わらべうたや子守歌が教科書に載り、全国で用いられることによって、本来、地域ごとに個性豊かな歌詞と旋律で歌われてきたものが、一つに固定される。これは、戦後の音楽教科書にも引き継がれていった。国家主義と郷土研究の矛盾の一つの現れであり、教科書の強制力によってわらべうたの本質を教師に見えなくしていった要因となった」と指摘する。なお、この課題は民謡にも当てはまる。  
権藤敦子「唱歌教育におけるわらべうた曲集の意味：教材化の視点を中心に」『音楽表現学』Vol.3、日本音楽表現学会、2005年、18頁。
- <sup>14</sup> 文部科学省『中学校学習指導要領解説 音楽編』2017年、105頁。  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/08/02/1387018\\_6\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/08/02/1387018_6_1.pdf)  
(2017年9月23日閲覧)
- <sup>15</sup> 教育芸術社 <https://www.kyogei.co.jp/digitaltextbook/h28jh/>（2017年5月6日閲覧）
- <sup>16</sup> 教育出版 <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/degital/cate2/post-20.html>（2017年5月6日閲覧）

